

都市における落書きと周辺環境との適合性に関する研究

落書きが周辺景観に対して持つ否定的側面と肯定的側面

THE STUDY ABOUT THE RELEVANCY OF GRAFFITI AND THE SURROUNDING ENVIRONMENT IN THE CITY

The negative and positive aspects of graffiti toward the surrounding landscape

小林 茂雄*

Shigeo KOBAYASHI

This study aims to examine how graffiti in outdoor space is being perceived in the surrounding environment. The experiments were carried out to evaluate the impression one gets toward graffiti from the pedestrian's perspective using images of actually existing large-scale graffiti, and images that combine existing scenery and graffiti. As a result, it was found that graffiti is better tolerated in such bleak looking places with long stretch of inorganic facades than residential areas and maintained places. In addition it was found that men are favorable toward graffiti in general, and women tend to detest violent graffiti. Furthermore, it was found that middle-aged people in their 40's and 50's are strongly aware of graffiti's relation with the surrounding environment than younger people in their 20's.

Keywords: graffiti, landscape, surrounding environment, harmony, street

落書き、景観、周辺環境、調和、街路

1. 研究の背景と目的

本研究は、近年都市部で問題化されている屋外空間に対する落書きが周辺環境の中でどのような捉え方をされているのかを探ることを目的とする。屋外の外壁やシャッター、ガードレール等に多くみられる落書きは古くから存在していたものの、1970年代のニューヨークを中心としたストリート文化等の影響を受けて、日本では1990年代より急速に増加するようになった。所有者や管理者に無断で描かれる落書きは明らかな違法行為であり、大規模な落書きは景観保全においても無視できるものではない。悪質な落書きを取り締まるため、地方公共団体では新たな条例を制定する動きも出てきている^{注1)}。落書きは、その大部分が粗悪で暴力的なものであり、バンダリズム(破壊行為)の一つとして捉えられる。ただし、中には手の込んだ絵画のようなものがあり、それらは、行為者自身が芸術活動と捉えて描いているものも多い。自己表現の手段としてだけでなく、地域を活性化させようという、景観破壊とは逆の意識に根ざしているものさえある^{注2)}。また絵として質の高い落書きは、芸術作品として評価されたり、無断で描かれていたとしても長年黙認されている場合もある^{注3)}。この様に一部の落書きは必ずしも周囲に悪い影響を与えるだけでなく、社会的に許容されている側面を見つけたことができる。ここで、落書きが周辺環境にどのような影響を与えるのかについて、今一度整理してみることも必要ではないかと考える。

落書きを対象とした既往研究としては、犯罪行為の一つとして被害の実

態と抑制方法に言及したもの^{1~2)}や、落書きを除去する塗料や建築材料に関する研究³⁾がある。基本的に落書きは全て否定的に捉える立場にあり^{注4)}、描写方法やその質にまで踏み込んでいるものはない。落書きの描写方法や描写内容については、美術的な観点に基づいた書籍、写真集^{4~6)}、行為者に対するインタビュー記事^{7~9)}などはみられる。ただし、周辺環境などに対する影響にはほとんど言及していない。また、落書きが描かれる場所を調査したものには、筆者による東京渋谷の落書きに関するもの¹⁰⁾があるのみで、他に系統立てた調査はみられない。

本研究は、落書きする側やされる側の当事者の立場ではなく、歩行中にそれらを見る第三者の立場で評価しようとするものである。それは行為の違法性や当事者の意図とは一旦距離を置き、落書きが景観の中でどのように捉えられているかに焦点を当てるためである。具体的には落書きが景観と調和しているか、活気を与えているか、落ち着きを損なっているか、等について検討するものとする。

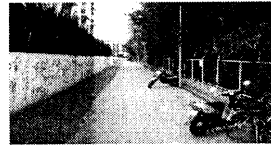
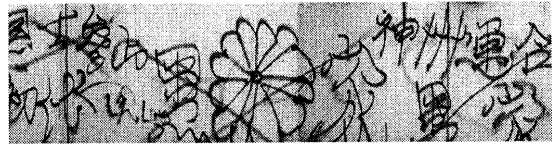
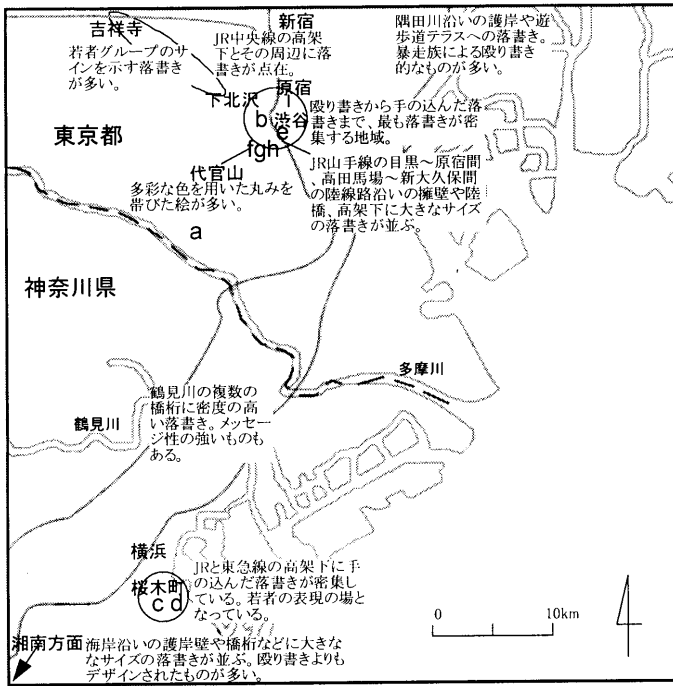
2. 現存する大規模な落書きに対する写真評価実験

2.1 実験概要

はじめに、現実に存在する大規模な落書きについて、その描写に対する印象と、周辺環境との関係について、第三者の視点で評価することを目的とした実験を行った。2001年時点で東京近郊に分布している主な落書きの特徴を図1(地図)に示す。落書きは、渋谷や新宿等の都

* 武蔵工業大学工学部建築学科 助教授・博士(工学)

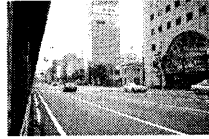
Assoc. Prof., Dept. of Architecture, Musashi Institute of Technology, Dr. Eng.



a. 等々力のマンション
世田谷区、丸子川に沿った閑静な住宅街に位置するマンションの塀(幅20m×高さ1.6mのコンクリート白色塗装)一面に黒や青のスプレーによる落書き。道路を挟んで小学校が位置する。漢字で描かれた文字が8割を占め、暴走族等の若者グループのサインや、互いを中傷するような言葉が記されている。複数のグループによって描かれたものと思われる。

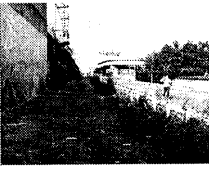


b. 渋谷の東急ハンズの裏
渋谷区宇田川町の人通りの多い路地。レコード店や住宅の壁や塀(幅10m×高さ2.5m)に赤、青、白、黒、ピンクなど様々な色のスプレーで描かれている。複数のグループの名称らしきロゴが多数描かれている。非常に高密度で、統一性がなく、所構わず描かれている印象を受ける。



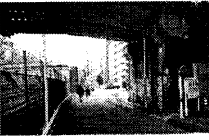
c. 桜木町の高架下①

東急東横線桜木町～高島町間の高架壁1kmにわたって描かれている。交通量の多い道路に隣接しているが、高架壁沿いの歩道は狭くて暗い。1977年頃、横浜出身のポップアーティストが描いたのが始まりとされる。キース・ヘリングがこの壁面に触発されて落書きを残したこともあった。許可を得て描かれたものではないが、黙認状態が続いている。



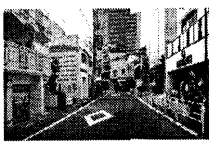
d. 桜木町の高架下②

cの逆側(みなと未来側)のJR根岸線の高架壁(幅30m×高さ4m)にスプレーで描かれている。周辺には、オフィス、住宅、店舗が混在する。渋谷に近いが、人通り、交通量は多くない。平面的なイラストや殴り書きの文字が何度も重ねて描かれている。落書きに統一性がなく、複数のグループによって描かれたものと思われる。



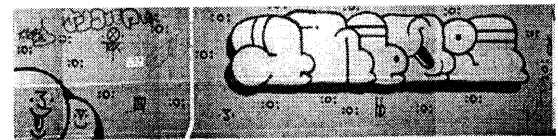
e. 代官山町の高架下

JR山手線と交差する東急東横線の高架下(幅5m×高さ3.5m)にスプレーで描かれている。周辺には、オフィス、住宅、店舗が混在する。渋谷に近いが、人通り、交通量は多くない。平面的なイラストや殴り書きの文字が何度も重ねて描かれている。落書きに統一性がなく、複数のグループによって描かれたものと思われる。



f. 代官山のキャッスルマンション

マンションの1階の店舗シャッター(幅4m×高さ2.5m)に連続して描かれている。若者が多く通る道路に面している。手の込んだ落書きもあるが、多くは統一性がなく殴り書きに近い。黒いシャッターには白いスプレー、白いシャッターにはピンクや水色、赤などで描かれている。



g. 代官山の駐車場の塀

旧山手通りから北東に入った駐車場の塀。若者が多く通る。灰色のコンクリートの塀(幅20m×高さ2m)にスプレーで描かれている。左半分は未完成のものが多く、右半分は丸めのイラストやロゴで統一されていて完成されている。ほとんどは黒、シルバーで描かれていて、色彩的には比較的地味。



h. 代官山の保育園

保育園の壁(幅8m×高さ1.2m)にスプレーで描かれている。子供らしいキャラクターの絵であるが、無許可で描かれたものである。隣には、小さな公園がある。若者向きの店舗が建ち並んでいて、人通りが多い。



i. 原宿の竹下通り

若者向けの店舗が建ち並ぶ竹下通りのシャッター(幅3m×高さ2.5m)にスプレーなどで描かれている。1998年11月、夜間の竹下通りの環境改善を目的に、総勢20余名の若手アーティストに依頼して描かれた。人物画やポップや抽象画など、モチーフは多彩で、手も込んでいる。

図1. 実験で提示した落書きの特徴と配置図
(左: 落書き、右: 周辺景観、何れも提示画像の一部)

心の繁華街と、公園、鉄道の線路や河川沿い、高速道路の土台や橋脚等に最も多くみられる。これらの中で、落書きが景観の中で占める割合が大きく、落書きの描写と落書きのある周辺環境の関係について特徴のある9種類のものを選出した。a・b・eは、落書きの描写が粗雑なものであり、c・d・h・iは手の込んだ描写のものである。描かれている対象は、a・bは住宅の外壁や塀、c・d・eは鉄道の高架壁面、f・iは店舗のシャッター、gは駐車場の塀、hは保育園の塀である。落書きの周辺環境は、aは住宅地、b・f・g・h・iは商業地域かそれに隣接する地域、c・d・eはオフィス街である。また、a～hの落書きは、所有者や管理者に無断で描かれた違法なものであるが、iのみは管理者に依頼して描かれたものである。iは厳密には落書きではないが、同様な描写があることが周辺環境に与える影響について他のものと比較するために用いた。

上記の落書きについて、落書きを正面から撮影してその描写部分だけを切り取った画像(図1左)と、落書きを含む周辺環境を撮影した画像(水平4方向、図1右)を用意した。実験は、はじめに落書きのみを切り取った画像(縦20cm・横64～125cm)を被験者に提示し、絵としての印象を評価させた。この時、落書きに対する否定的な先入観を持たせ

表1. 因子負荷表

	第1因子	第2因子
芸術的な	0.990	0.133
美しい	0.909	0.378
ユーモアのある	0.851	0.502
好き	0.818	0.541
楽しい	0.735	0.658
すっきりした	0.212	0.956
かわいらしい	0.327	0.916
乱暴な	-0.564	-0.771
寄与率 (%)	52.627	43.574

因子抽出法:主因子法
回転:バリマックス回転

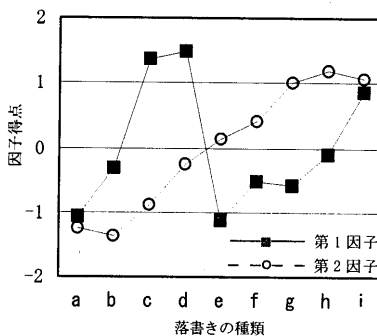
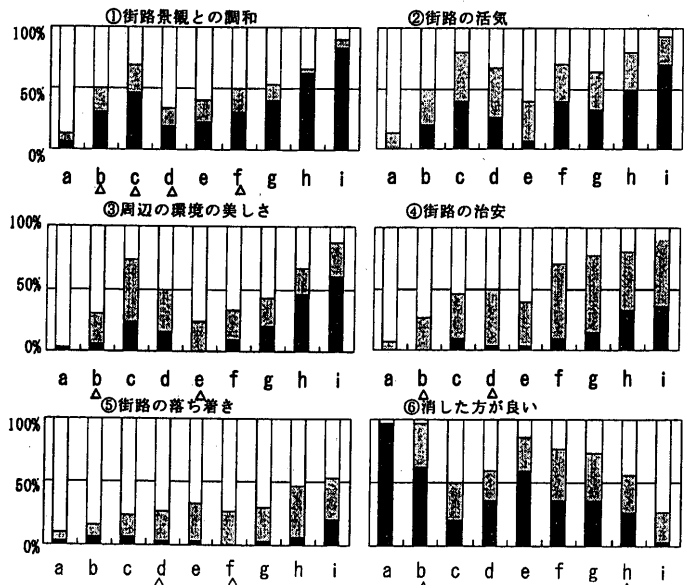


図2. 落書きの絵としての印象



被験者性別による有意差
 △、▼:有意水準5%、△△、▼▼:有意水準1%
 男性の方が「良くなっている」比率が高い:△
 女性の方が「良くなっている」比率が高い:▼
 ■:良くなっている・やや良くなっている
 ◎:消した方がよい・どちらかといえば消した方がよい
 □:どちらともいえない
 □:悪くなっている・やや悪くなっている
 ◎:残した方がよい・どちらかといえば残した方がよい

図3. 落書きが周辺環境に与える影響

ないために、「このイラストに対してどう感じますか」といった教示を与え、「落書き」という言葉は用いていない。評価項目は、表1に示す8項目であり、それぞれ、「そう思う・ややそう思う・そう思わない」の3段階で評価するものとした。

全ての落書きに対する絵としての評価の後、描かれている場所を被験者に伝えると共に周辺環境を含めた画像(縦20cm・横30～40cmを4方向)を提示し、落書きと周辺環境との関係について6項目の評価をさせた。すなわち、「①街路景観との調和・②街路の活気・③周辺の環境の美しさ・④街路の治安・⑤街路の落ち着き」について、イラストがあることで「良くなっている・やや良くなっている・どちらでもない・やや悪くなっている・悪くなっている」の5段階で評価し、さらに「⑥このイラストを消した方がよいと思いますか?」について、「消した方がよい・どちらかといえば消した方がよい・どちらでもない・どちらかといえば残した方がよい・残した方がよい」の5段階で評価するものである。このとき、a～hは無断で描かれたもの、iは依頼して描かれたものであることを教示した。また、⑥の項目について評価した後、評価した理由についてインタビューを行った。被験者は20代の30名(男15名、女15名)で、全員9箇所の地域を訪れた経験を持っている。実験者は被験者と対面する形で個別に行った。

2.2 実験結果

被験者への教示では「落書き」を「イラスト」と置き換えたが、以下の記述では全て「落書き」と表記することにする。落書きの絵としての評価に対する評価項目を因子分析した結果を表1に示す。ここで第1因子は、「芸術的な・美しい」等への負荷が強い因子であり、第2因子は「すっきりした・かわいらしい」等への負荷が強い因子である。図2に落書きごとの因子得点を示す。aは両因子得点共に低く、iは両因子得点共に高い。b・c・dは第2因子より第1因子の方が高く、芸術的だがすっきりしていないと評価されている。e・f・g・hは第1因子より第2因子の方が高く、芸術的ではないがすっきりしていると評価されている。

図3に、落書きと周辺環境との関係についての評価した結果を示す。また、被験者の性別により、評価差を検定(ノンパラメトリック検定)した結果を併せて示している。

評価項目①の街路景観との調和は、「良くなっている・やや良くなっている」が50%以上となるのはh・iのみである。これらは絵としての印象も比較的良く、特に第2因子の得点が高い。a・b・d・eは「悪くなっている・やや悪くなっている」が50%以上となっている。a・b・eは絵としての印象も悪く、bは第2因子がeは第1因子の得点が低い。cとdは場所も近く落書きの規模や絵としての印象も類似しているが、cの方が景観と調和していると判断されている。またb・c・d・fは被験者の性別で有意差があり、男性の方が女性よりも調和していると判断されている。

②～⑤の評価項目についても、落書きごとの相対的な評価は①の評価傾向と類似している。③美しさ・④治安・⑤落ち着きは全体的に肯定的な評価の比率が低い。特に⑤の落ち着きは、i以外の全ての落書きで、「悪くなっている・やや悪くなっている」が50%以上となっている。④の治安は、全体的に「どちらともいえない」の比率が高く、落書きが直接的に強く影響しているとはいえない。②の活気については、肯定的な評価と否定的な評価が拮抗しているものが多く、被験者により判断が分かれているといえる。ただし、性別による有意差はみられない。

⑥の落書きを消したほうが良いかの判断は、第三者の観点での総合評価と考えられる。a・b・eは「消した方がよい・どちらかといえば消した

方が良い」が50%以上となり、c・iは「残した方が良い・どちらかといえば残した方が良い」が50%以上となっている。全体的に①～⑤の評価とは相反する傾向がある。d・f・g・hの落書きは被験者により評価が割れている。表2には、⑥の判断に対する被験者の意見の中で主なものを示した。a・bは共に住宅に描かれているものであるが、aの方がより否定的である。「消した方が良い」とする理由には、描写の汚さや住民への迷惑に関するものが多くみられる。bの「残した方が良い」理由としては、建物周辺環境に関するものよりも「渋谷」の持つイメージや地区らしさに関係するものがみられた。c・d・eは共に高架壁に描かれたものであるが、c・dは肯定的な評価の方がやや多く、eは否定的な評価の方がやや多い。その理由としては、絵の完成度や芸術性に触れるものが多い。また「高架下には絵が描かれていた方が良いが質の高いものでなければならぬ」という意見もあった。f・g・hは、何れも代官山に位置するものである。評価にはあまり違いはなく、肯定的な評価と否定的な評価がほぼ同数である。肯定的な意見として、活気や明るさをもたらす・場所に合っているなどがあり、否定的な意見として、絵の暴力性や違法行為自体に対する嫌悪感がある。またiは「残した方が良い」という肯定的な評価が圧倒的に多い。違法行為でないことの影響が大きいと思われるが、絵自体が景観や地区のイメージと調和していることによ

表2. 落書きに対する被験者の主な意見

	残した方が良い	消した方が良い
a		<ul style="list-style-type: none"> 汚い、住民に迷惑(M)(F) 芸術性がなく、悪い人たちが集まりそうだから(M) 歩くのに怖く感じる。住宅街なので、安全性やきれいさを求めるために消したほうが良い(F)
b	<ul style="list-style-type: none"> 渋谷らしい活気がある(M) 渋谷という街の文化を良く表していると思う(M) 	<ul style="list-style-type: none"> 他の犯罪への不安を感じる(F) バラバラで何の統一性もない(M) 店舗のものは仕方ないが、民家に描いてあるのは消すべき(M)
c	<ul style="list-style-type: none"> 高架の殺風景な雰囲気を緩和している(M)・名所になっているため(F) レベルの高いイラストが多いし、このイラストがなくなったら暗くて治安の悪いとおりになりそう(F) 	<ul style="list-style-type: none"> この絵だけでこの街が活気に溢れているとは思わない。描く場所はここでも良い(M) 桜木町に絵はほらない(F) 絵は好きだが環境に合わない(M)
d	<ul style="list-style-type: none"> 場所に関してはやや疑問はあるが、絵として芸術的なので、消してしまうと寂しい感じがする(M) 美しく、活気が出そう(F) 芸術的な絵だから消してしまうと寂しくなりそう(F) 	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に楽しい印象だが、きれいな景観への影響が強すぎる(M) 絵のインパクトが強すぎる(F) cの場所みたいに大通りに面しているわけではないし、せっかく開けていて明るい雰囲気なので無い方が発展しそうだから(F)
e	<ul style="list-style-type: none"> 周辺に特に影響しているわけでもなさそうだし、消さなくてもいいと思う(M) 年齢層の高い人たちにとっては悪い印象かもしれないが、若い人が集まる象徴らしくてよいと思う(F) 	<ul style="list-style-type: none"> 治安が悪くなっていると思う(M) 何もないと寂しいので何か書いたほうが良いが、どくろや文字は消したほうが良い(M) 絵があっても怖くはないが、汚い(F)
f	<ul style="list-style-type: none"> 色使いがきれいだからあっても良い。それぞれのシャッターに別のイラストがあっても楽しい(M) 落書きがあるから若者らしい場所になっていると思う(F) 	<ul style="list-style-type: none"> 店に応じた絵なら活気が出てよいと思うが 個々の絵がばらばらなので消したほうが良い(M) 自分が住民だったら描かれる事自体が嫌だから(F)
g	<ul style="list-style-type: none"> 通りの印象が楽しい感じになっている。何も無いより描かれていてもいいと思う(M) これだけ長い壁なら何も無いよりこれくらい描いてあるほうが良い(F) 	<ul style="list-style-type: none"> 作者はイラストがあった方が楽しいと思っているようだが、無い方が美しい(M) 所有者に消された跡があり、迷惑しているのかもしれないから(F)
h	<ul style="list-style-type: none"> 何も無いと、暗い雰囲気になってしまうし、子供たちも喜んでいるはず(M) 幼稚園の雰囲気にとても合ってるしかわいから(F) 	<ul style="list-style-type: none"> 幼稚園の壁ならばもっと幼稚園らしい絵のほうが良い(M) 子供が怖がりそう(F) 周辺に落書きが多いが、幼稚園だけでも落書きは消すべき(F)
i	<ul style="list-style-type: none"> 原宿らしさが出ているし、活気も増加していると思う(M) 消したとしたらもっと怖そうなる落書きがされそうなので、この絵は残したほうが良いと(F) 	<ul style="list-style-type: none"> 各イラストはきれいでも良いと思うが、統一性があるわけではないのでバラバラに消すべき(M)

(M): 男性の意見, (F): 女性の意見

る効果も得られている。

以上の結果より、総体的には絵としての印象が良い落書きの方が許容されやすいことが分かる。周辺環境については、住宅地や整備された場所にあるものよりも、殺風景な場所の方が許容されやすいといえる。cやgのように無機質な壁面が長距離に渡って続く地域では、落書きが単調な雰囲気を緩和する効果もあると考えられる。商業地域では活気を与えることもあるが、全体的に評価は被験者によって分かれやすい。また被験者の性別では、全体的に男性の方が落書きに対する好意的な印象を持つ傾向にある。女性は特に暴力的な印象を受ける落書きに対する評価が低くなる傾向にある。さらに、同じ様な描写であっても、依頼して描かれたものについては肯定的に評価されやすいといえる。

3. 落書きを合成した画像に対する評価実験

3.1 実験概要

先の実験は、落書きの絵と描かれる環境の関係を統制したものではなかった。そこで次に、落書きと周辺環境との関係をより明確に把握するため、同じ環境に異なる落書きが描かれた場合と、同じ落書きが異なる環境に描かれた場合について評価する実験を行った。落書きの描かれる場所として、図4に示す世田谷区奥沢に位置する住宅街と商店街の2か所を選出した。それぞれ同程度の道幅と建物高さを持つが、隣接する建物用途が異なる。この街路の一つの建物のシャッターに落書きを合成した。落書きは図5に示すA～Dの4種類である。AとBは共に手



図4. 対象とした2つの街路

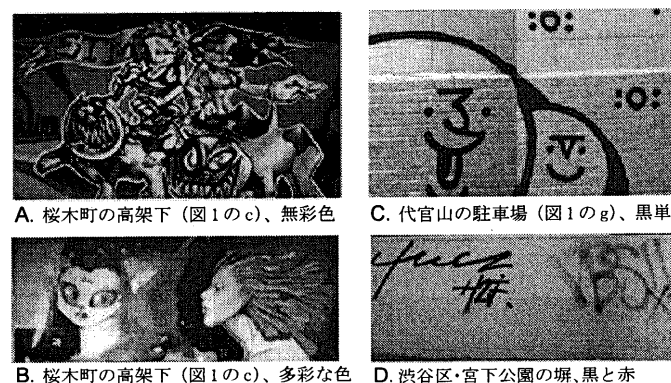


図5. 合成に用いた落書き

の込んだ高密度のものであるが色合いが大きく異なる。Cは無彩色でシンプルな絵柄であり、Dは乱暴なサインである。先の実験と同様に、被験者にはじめに落書きのみを切り取った図5の画像を提示し、絵としての印象を先と同様の8項目で評価(3段階)させた。次に、落書きを合成した街路の画像(建物正面の画像と道路軸線方向の画像の2枚)を提示し、周辺環境との関係について先の実験と同様の6項目で評価(5段階)させた。被験者は地域の住民の観点からではなく、一般歩行者の視点で評価するものとした。また、落書きされる当事者の態度については、「落書きは所有者に無断で描かれたものであるが、黙認された状態である」と教示した。被験者は20代の30名(男15名、女15名)、40~50代の10名(男5名、女5名)の計40人である。何れも対象地の住民ではないが、隣接する駅を利用して通勤・通学する者であり、その地域を歩行した経験を持っている^{注5)}。

3.2 実験結果

表3に、落書きの絵としての評価に対する因子分析結果を示す。第1因子は、「かわいらしい・楽しい・すっきりした」等の項目への負荷

表3. 因子負荷表

	第1因子	第2因子
かわいらしい	0.997	0.038
楽しい	0.979	0.138
すっきりした	0.915	-0.362
好き	0.880	0.469
ユーモアのある	0.838	0.375
乱暴な	-0.805	-0.477
芸術的な	0.065	0.995
美しい	0.161	0.970
寄与率(%)	61.814	33.384

因子抽出法:主因子法
回転:バリマックス回転

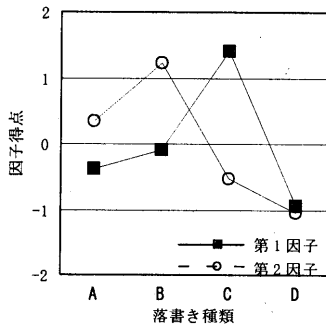


図6. 落書きの絵としての印象

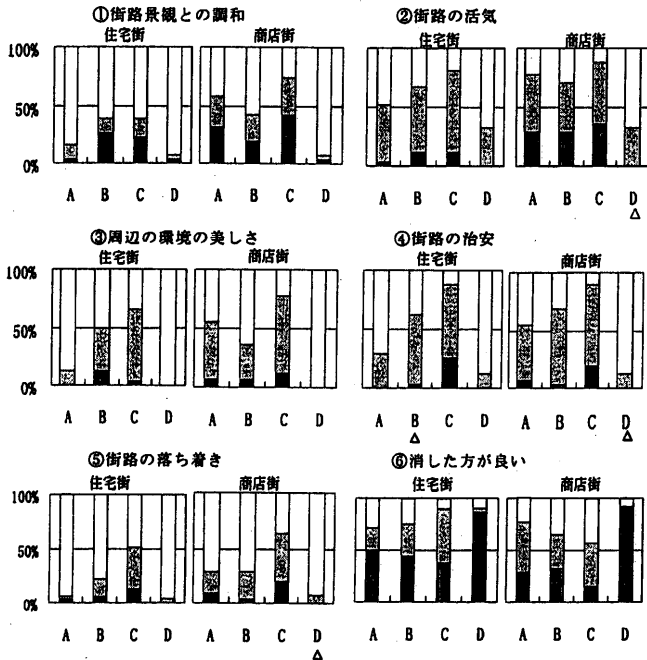
が強く、第2因子は「芸術的な・美しい」への負荷が強い。図6に落書きごとの因子得点を示す。Cは第1因子の得点が相対的に高く、AとBは第2因子の得点が相対的に高い。Dはいずれの因子得点も低い。

図7に、落書きと周辺環境との関係について評価した結果を被験者の年代別に示している。また表4に落書き別、周辺環境別、被験者年代別に評価差を検定した結果を示す^{注6)}。図7と表4(1)より、落書き別の評価で最も肯定的なのはCであり、最も否定的なのはDである。またAとBは街路によって評価が異なり、住宅街ではAよりBの方が肯定的な評価の比率が高いが、商店街ではAとBに有意な差はみられない。表4(2)の、街路別の評価差は、①についてはAは商店街の方が調和するとされ、Cは住宅街の方が調和するとされている。②は、A・Bは商店街の方が活気が良くなるとされている。③はCが住宅街の方が美しくなるとされ、Aは商店街の方が美しくなるとされている。④はAが商店街の方が治安が良くなるとされている。⑤はA・Bが商店街の方が落ち着きが増すとされている。全体的に、絵としての印象において第2因子得点が高いA・Bが商店街での評価が高くなり、第1因子得点が高いCが住宅街で評価が高くなっている。住宅街では手の込んだ芸術的な落書きより、簡素なものの方が景観との調和等への効果が得られやすいと考えられる。

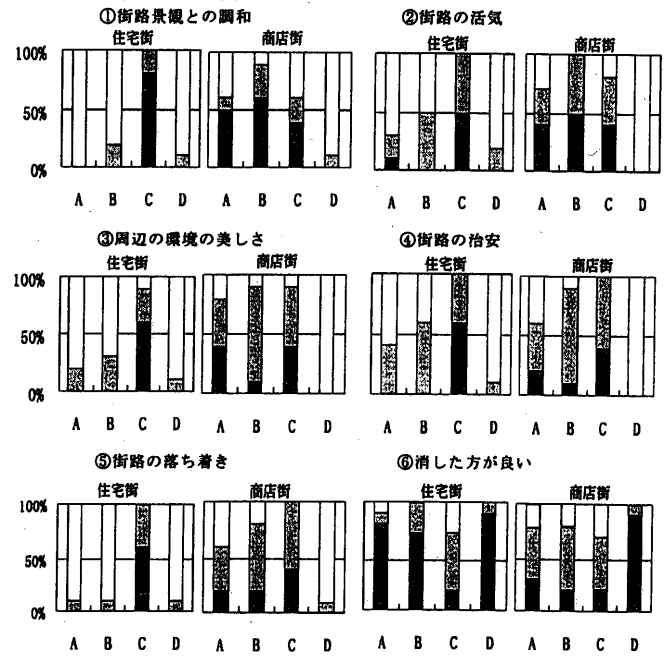
表4(3)の被験者の年代による比較では、住宅街で顕著な差があり、Cの落書きが20代よりも40~50代の方が何れの項目も肯定的である。また、Bは20代の方が落ち着きが増しているとされ、A・Bは40~50代の方が消した方が良いとされている。

表5には⑥の落書きを消した方が良いかという評価に関する主な理由を示している。図7より、AとBは40~50代の被験者は住宅街で「消した方が良い」との否定的な評価の比率が高いが、商店街では否定的な評価の比率は低い。その理由として、Aの描写は住宅街では暴力的・恐ろしいといった理由が述べられ、商店街ではそうした面も商店街なら良い

・20代(被験者30名)



・40~50代(被験者10名)



被験者性別による有意差
△、▽:有意水準5%、△△、▽▽:有意水準1%
男性の方が「良くなっている」の比率が高い:△
女性の方が「良くなっている」の比率が高い:▽

■:良くなっている・やや良くなっている □:どちらともいえない
⑤消した方が良いどちらかといえば消した方が良い ⑥残した方が良いどちらかといえば残した方が良い

図7. 落書きが周辺環境に与える影響

表4. 落書きによる評価差の検定
ノンパラメトリック検定

(1) 落書きによる評価差

対応条件	住宅街						商店街					
	①調和	②活気	③美化	④治安	⑤落着	⑥消去	①調和	②活気	③美化	④治安	⑤落着	⑥消去
A-B	▼▼	▼	▼▼	▼	▼							
A-C	▼▼	▼▼	▼▼	▼▼	▼▼	△△		▼		▼▼	▼▼	
A-D	△	△△	△	△△		▼		△△	△△	△△	△△	▼▼
B-C				▼	▼▼	△		▼		▼	▼	△
B-D	△△	△△	△△	△△	△△	▼▼	△△	△△	△△	△△	△△	▼▼
C-D	△△	△△	△△	△△	△△	▼▼	△△	△△	△△	△△	△△	▼▼

△:左の条件の方が「良くなっている」比率が高い
▼:右の条件の方が「良くなっている」比率が高い

(2) 街路による評価差

	A	B	C	D
①調和	▼▼		△△	
②活気	▼▼	▼▼		
③美化	▼▼		△	
④治安	▼			
⑤落着	▼	▼▼		
⑥消去	△△			

△:住宅街の方が「良くなっている」比率が高い
▼:商店街の方が「良くなっている」比率が高い

△:20代の方が「良くなっている」比率が高い
▼:40~50代の方が「良くなっている」比率が高い

△、▼:有意水準5%
①調和:街路景観との調和
③美化:周辺環境の美しさ
⑤落着:街路の落着き

(3) 被験者の年代による評価差

		年代			
		A	B	C	D
住宅街	①調和			▼▼	
	②活気			▼▼	
	③美化			▼▼	
	④治安			▼▼	
	⑤落着		△	▼▼	
	⑥消去	▼▼	▼	△	
商店街	①調和		▼		
	②活気				
	③美化			▼	
	④治安				
	⑤落着				
	⑥消去				

△、▼▼:有意水準1%
②活気:街路の活気
④治安:街路の治安
⑥消去:消した方がよい

表5. 被験者年代別の落書きに対する主な意見

		20代	40~50代
住宅街	A	△芸術的な絵だし色彩が地味だから、あっても別に良い。 △これだけ描かれたものを消す必要はない。 ▼住宅街には鮮やか過ぎるのでは。 ▼暴力的で住宅街には必要ない。	△絵そのものは悪い絵ではないので無理に消さなくとも良い。 ▼絵が抽象的で悪い感じ。風景などのぼのぼのとした絵がほしい。 ▼暴力的で住宅街には合っていない。
	B	△調和していないが完成度が高い。 △絵の色が景観の明るい色と合っているように見える。 ▼住宅街には鮮やか過ぎるのでは。	△色合いがよい ▼もっと優しい絵の方が良い。 ▼派手すぎる。住宅街には突出し過ぎている。
	C	▼絵は大好きだが、この街路に合わない。 ▼絵はかわいらしいが、周辺とのバランスが悪い。	△絵が面白く、心が和む。 △静かで無理のないデザインの絵で、ほほえましく良い。 ▼地味すぎるのでなくともよい。
	D	▼怖いし、住民は不快なはず。 ▼不快なだけ。 ▼無許可なのは明確であり、周辺の住民が迷惑しているから。	▼ただの落書きに見える。 ▼環境の悪化につながるイメージ。 ▼より治安が悪くなりそう。
商店街	A	△職種にもよるが、レベルが高い絵なのであってもよい。 △乱暴に描いただけではない。がんばっている。 ▼イメージ暗いのでない方がよい。 ▼もう少し明るい絵なら良い。	△活気があって、全体的にマッチしているように見える。 △暗く怖い印象だが駅前であっても悪い感じはない。 ▼絵が怖い。
	B	△明るい絵なのであってもよい。 △色鮮やかで、商店街の活気を感じられる。 ▼絵の趣味が悪い。	△それぞれの店舗の個性を活かしたものなら良い。 ▼これ位の絵はあってもよい。少し派手すぎるとは感じる。 ▼少々絵の個性が強すぎるのでは。
	C	△かわいらしいので、特に消すことはない。 △絵が楽しいので、明るく活気のある商店街に見える。 ▼あってもなくても同じ。	△大変面白く、簡単、シンプルの中で個性にあふれている。 △絵が落ち着いているので、落ち着いた商店街に見える。 ▼絵が地味なので、あってもなくても同じ。
	D	▼汚いし、治安が悪そうに感じる。 ▼商店街の風紀が乱れている感じがする。 ▼無許可なのは明確で、商店街の価値を傷つけている。	▼皆が集まる場所なのに、この落書きはあまりにも投げやりで最悪である。 ▼ただの落書き。悪影響しか与えていない気がする。

△:落書きに対する肯定的意見、▼:落書きに対する否定的意見

のではとされている。Bは住宅街には派手すぎるとい意見があり、商店街では色鮮やかで好ましい、といった意見が目立つ。Cは最も「消した方がよい」とする被験者の比率が低いもので、特に、40~50代の被験者の住宅街では他の落書きと比較して顕著である。その理由として、絵の持つ和みや微笑まじさが住宅街に合っていることなどが挙げられている。Dはほとんどの被験者が「消した方がよい」としており、性別、年代による差もない。

全体的に40~50代の被験者は、落書きに対する意見の中で周辺環境のふさわしさに触れるものが多くみられる。①~⑤の評価についても、同じ落書きの評価を街路によって大きく変える傾向にあり、住宅街ではCの評価のみが高くA・B・Dの評価は低い、商店街ではA・B・Cの評価が比較的高くDの評価のみ低くなっている。これらことから、40~50代の被験者は、落書きに対する評価について周辺環境との関係をより強く意識しているものと思われる。

一方、20代の被験者は、全体的に住宅街より商店街での評価が高くなるものの、街路によって落書きの評価が大きく変わることはない。またAとBの落書きについては、①~⑤の評価が全体的に低いものの、⑥の消した方がよいかについては否定的な評価がそれほど多くないという特徴がある。落書きを残した方がよいとする理由としては、絵の芸術性に着目するものや、描き手の労力に共感するようなものがみられる。

特に描き手側に共感するような意見は、40~50代の被験者ではほとんどみられず、年代による差異が表れているといえる。

4. まとめ

本研究では、屋外空間に許可なく描かれる落書きについて、絵としての印象と周辺環境との関係に関して第三者の立場で評価する実験を行った。主として20代の被験者を対象とした実験の結果得られた主な内容を以下にまとめる。

- ・絵としての印象が良い落書きの方が許容されやすく、殴り書きの様なものはどの環境でも許容されにくい。
 - ・住宅地や整備された環境にある落書きよりも、無機質な壁面が続く殺風景な環境にある落書きの方が許容されやすい。
 - ・20代の被験者は、全般的に女性より男性の方が落書きに対して好意的な印象を持つ傾向にある。
 - ・20代の被験者の中には、手の込んだ落書きについて、その芸術性や描き手へ共感から受け入れようとする場合がある。
- さらに、被験者の年代による評価には次のような傾向がみられた。
- ・40~50代の被験者は20代の被験者より周辺環境によって落書きの評価を大きく変える傾向がある。商店街には芸術的なものが、住宅街には簡素なものが受け入れられやすい。

今後の課題

本研究の結果は画像を提示した評価実験に基づいており、実際の環境に対峙した場合と異なる点があると考えられる。今後、居住者や歩行者の生の意見を拾うなどの補足をしていきたい。

謝辞

本研究は、武蔵工業大学卒論生の金井健一氏と荘司景子氏と共同で行った。記して謝意を表する。

注1) 他者の所有物や公共物に対する落書きは、建造物損壊罪や器物損壊罪、都道府県の迷惑防止条例違反にあたる。これに加えて、各地方公共団体は新たな条例を制定しはじめている。東京都渋谷区では悪質な落書きやゴミ問題に対処するため、1998年4月1日「きれいなまち渋谷をみんなで作る条例」が施行された。他に落書きに特化した条例として、「落書きのない美しい奈良をつくる条例」「仙台市落書きの防止に関する条例」などがある。

注2) 落書きをする者へのインタビュー記事などから、描く動機の中に環境を活性化したり、美化したりすることが示されている。例えば地域のコミュニケーションを活性化させようとする⁷⁾、景観の有する特徴を強調しようとする¹¹⁾、などがある。

注3) 芸術家に自己表現のための合法的な場が与えられるものもあり、古くは1970年の大阪万博で落書きのための壁面が用意された。また図1のcなど、長年黙認されているものもある。

注4) 割れた窓を放置しておくことが犯罪を加速させるという「割れ窓理論」のように、軽微な犯罪の放置が治安につながるものとされる¹⁾。落書きについても放置しておくことがさらなる犯罪を引き起こすきっかけになるとされる。

注5) 対象地区の住民は客観的な評価をすることは難しく、また対象地区をほ

とんど訪れたことのない被験者は地区の周辺環境をイメージすることが難しい。対象地区を良く知り、かつ客観的に判断できる被験者として、対象地区の最寄駅(九品仏駅)に隣接する駅(自由が丘駅と尾山台駅)近くに通勤・通学する者とした。

注6) 表4の(1)(2)の検定は、全被験者(40名)を対象として行った。被験者数は20代と40～50代では大きな差があり、被験者年代別に分けた検定では検出力の違いから適切な比較ができなかったと考えた。

参考文献

- 1) Murray, J. and Murray, K. : Broken Windows : Burning New York , Ginkgo Press, 2002
- 2) Poyner, B. (小出治、清水賢二、佐々木真郎、高杉文子訳) : デザインは犯罪を防ぐー犯罪防止のための環境設計ー(財)都市防犯研究センター、1991
- 3) 松井勇、湯浅昇、米久田啓貴、石上康史 : 落書きの実態と建築材料の落書き除去性に及ぼす試験条件の影響ー材料の落書き除去性評価方法に関する研究(その1)ー日本建築学会構造系論文集、No.557、p.43-48、2002.7
- 4) Cooper, M. and Chalfant, H. : Subway Art, Henry Holt & Company, 1984
- 5) Henry C. and Prigoff J. : Spraycan Art., Thames & Hudson Inc., 1987
- 6) 能勢理子 : ニューヨーク・グラフィティ、グラフィック社、2000.7
- 7) Art Crimes The Writing on the Wall <http://www.graffiti.org/>
- 8) デザイン・グラフィックアートの世界線、Studio Voice, vol.306, pp.20-65, 2001.6
- 9) グラフィティの未来系、Studio Voice, vol.314, pp.16-57, 2002.2
- 10) 小林茂雄 : 都市の街路に描かれる落書きの分布と特徴ー渋谷駅周辺の建物シャッターに対する落書き被害からー、日本建築学会計画系論文集、No.560、pp.59-64、2002.10
- 11) Sommer, R. (加藤常雄訳) : デザインの認識、鹿島出版会、1978

(2002年9月10日原稿受理、2003年1月29日採用決定)